



「平成13年度消費者団体研究活動等奨励事業」に参加

神奈川県県民部消費生活課が行っている、「消費者団体研究活動等奨励事業」に選定されたことにより、「ファイバーリサイクルの新たな展開について」の研究をすることができました。折しも、私たちが故繊維の回収を始めた10年前と比べて大きく状況が変化している中で、自分たちの活動を見直す必要に迫られていました。

そこで、まずファイバーリサイクルの現状と問題点を明確にするために緊急シンポジウム「循環型社会それぞれの思惑」を開催しました。次に、中区での回収の際にアンケート調査を行って“古着をゴミとして捨てることに対して抵抗があるか”を調べ、また「秋のリサイクルきものフェア」では、“和服のリユースについての意識調査”を行いました。その結果、日本の文化でもある和服のリサイクル（リユース）は、大変意味のあるもので、これから先も続けて行く価値のあるものだということが良く解りました。

私たちの活動の第一段階は、使用済みの繊維類をゴミにしないで再利用できるルートに乗せるための活動でしたが、それだけでは不十分で、第二段階として集まったものを再利用する方法を市民側から提案していく活動も、これから先ますます重要になると考えられます。そのための具体的な活動として、春と秋の「リサイクルきものフェア」の他にも、再利用の提案として“さき布ぞうり作り”や“手作り作品の講習会”、“草木染め（藍染め）”“着物に関する学習会”などを行っていく必要があります。

また、大勢の市民が環境問題に関心をもたなければいけないという社会の要求に応えるべく、子どもたちの総合学習で出前授業ができるような準備をすることも、私たちにとって大切な役割だと感じました。

この研究活動は、昨年6月に助成されることが決定してから、総合学習プロジェクトで内容を検討してアンケートの作成、集計、まとめなどを行いました。7月に第1回の勉強会に他の4団体とともに出席し、今年1月には第2回勉強会で相模女子短大の高橋明子先生から助言をいただき、そして2月27日にかながわ県民センターで行われた報告会では嶋田さんが大変立派な報告をされました。

日頃、次々とイベントに追われていて自分たちの活動を振り返る余裕もないのですが、今回この奨励事業に参加したことで、改めて自分たちが行ってきた活動を客観的に見据え今後の課題について考えることができたことは、大きな収穫だったと感謝しています。

(総合学習プロジェクト 佐野泰子)

きもの・和布・手作り・大好きな人集れ!

FRNのリサイクルきものフェア

志沢 希久子

6月20日で、10周年をむかえるファイバー・リサイクル・ネットワークが、初めてリサイクルきものフェアを開催したのは、1999年3月2日(火)。来場者300名でした。思いのほか、反響の大きかったことにみんなでびっくりしました。古着・古織物の回収活動を7年続けていく中で、リユースの必要性を学び、日本の伝統文化としての和服類の再利用活動を試みたのです。

準備はナカノ工場に和服の選別に行くところからです。圧縮されたきもの、帯、小物の格闘でした。からまっている、しわくちゃになっている着物や帯たち。工場の建物の軒下や通路にシートを敷いての作業でした。準備のできたものは大きなカーテンに包み、工場にあずかっていただきました。当時は、今の様な作業の出来る様な事務所はありませんでしたから、しわになった着物にアイロンかけることもできませんでした。

当日を迎えるまで、どのくらい一般の方が関心を持っているかわかりませんでした。不思議に不安はありませんでした。自分達で企画することのおもしろさがあったのでしよう。したたかな、しなやかな女性たちのパワーって凄いですね。それにしても、私たちの先見性、コツコツと根気よいのは回収活動で培ったものなのだと自負しています。

現在では、街の中に「和服のリサイクルショップ」が次々に開業。女性たちも様々なアイデアで「和布で遊ぶ」ことに魅力を感じてきたのでしよう。

4月11日に開催した7回目の「春のリサイクルきものフェア」の来場者は1000名にもなって大盛況でした。前日、当日、日常作業に協力下さいましたみなさま、本当にご苦労様でした。体力を日頃からつけておく必要がありますよね。

5回目からは実行委員会形式で企画することで、より充実したものになってきたと思います。今では、地方からも活動の状況を知りたいとの問い合わせや、見学希望などがあります。

「春のリサイクルきものフェア」の来場者の皆さんは、凄まじいまでのお買い物ぶりでした。私たちも準備した甲斐がありました。

6回目からは、アンケートでボランティアの希望者をつのつてみましたら、30名の方が名乗りでて下さいました。ボランティアが参加するための新たな体制、組み立てが必要になってきました。次への大切なステップとして、みんなで考えていきましょう。

今後は参加型の活動として発展していくことがとても大切だと思いますが、基本の回収活動を日常的に実践している運営委員さんやポイントの皆さんが今後も、楽しみながらリーダーシップをとってくださることが成功の要だと思っています。

次回「秋のリサイクルきものフェア」は10月31(木)です。さあ!スタート!

「昔きもの」の売り場から

山田 桃子

会場に入ると帯の金糸・銀糸とは違った、懐かしさを感じる色合いのコーナーがあります。紅絹の色、思いがけない配色、斬新な模様。昔きものを手に取って下さる皆様が回をう追う毎に増えているように思います。

私は2年前の4月にNHKにFRNが放送された後に、この事務所にボランティアとして東京から通っています。(月2~3回)横浜在住時に「分ければ資源、混ぜればゴミ」と言うことで分別収集、資源回収運動をしていました。15年振りに当時、ご一緒していた志沢様の声。「FRNで事務所を開いたの。きものフェアの準備で忙しいの」

着物に興味があったこと、女性ばかりの力で事務所を立ち上げ、運営していること、収益の一部を寄付していること、国レベルでようやく循環型社会をと動き始める前から「古布

・古着」のリサイクル運動をしていること。そうした点が、身内の看護・介護そして転居とあわただしい日々を縫って、FRNに通う動機となりました。元々、手作りしたり、布をいじったりするのが大好きでしたので、寄せられた着物の整理をするうちに、セピア色に変わった写真でしか見たことのない古い着物に、どんどん魅き込まれています。織や染の手仕事をする人が少なくなり、当時は普段着であつたのに今では手に入れにくくなった物。古いから捨てた、燃やしてしまったとも聞きます。どうぞ大事にして下さい。生かして下さいと願いながら作業しています。昔きものコーナーには、着物をリメイクするだけでなく、自分流に組み合わせる若い方がいらっしゃるのを見てとても、嬉しく思っています。

—すこい 行列—



<少しはやり易かったかな! ?>

お勘定場のあり方を色々工夫したようでしたがやり易かったのでしょうか。今までは値札取り、計算、支払いを1箇所でやっていました。今回は「値札取り、計算」は右側で、「支払い」は左側と分けられました。担当された方々に感想を伺いました。左側の「支払い」担当者は「とても楽で申し訳がないようです」とのことでした。右側の担当者は「混んできた時に、値札の付いている場所を探すのが大変でした。値札がすぐに分かるように、買った人も少しは協力してくれるといいのだけれど…」

色々、工夫はしたけれど、あの人数、あの混雑にはちょっと追いつけなかったのが実情のようです。嬉しい悲鳴です。秋も頑張ってください。

〈回収活動担当のつぶやき〉

赤岡 清子

古着、古布はほとんど100%リサイクルできます!!と呼びかけてスタートしたファイバーリサイクルネットワークの活動でしたが回収だけの活動から、再生活用⇒出口も考える活動へと変化してきました。

“回収した繊維類の滞貨”現象が生じてきました。今までは、主に東南アジアに向けて輸出されていた中古繊維が、他国が同じ市場に向けて出荷するようになったため、価格競争が起こっています。

ウエスも国内の工場の海外への転出と国内の経済の低迷を受けたこと、更に不織布、レンタルウエスの使用が始まったため、需要が大幅に減退してきました。

春のきものフェアを終えて

鈴木 芳子

春を待つ心、そんな気持ちで、今年も「きものフェア」が県民センターで開催されました。この日のために早朝から沢山の熱心な人たちが駆けつけました。日本古来の伝統文化である「きもの」が、現在では着用されず箆の奥深くしまわれ、利用されないままになっているものが、全国からFRNの事務所に送られてきます。「きものフェア」を開催することにより、新しい出口としてリメイクして頂けたら何よりのお返しだと思います。1枚1枚整理していると、その人の人生をきものが語っているように思えます。きものフェアの来場者の中にはリメイクしたジャケット、かばん、スカート、パンツ、コート等、それぞれ工夫して私たちに披露して下さる方々も増えてきています。これは本当に頼もしいことです。また、ゴミとして廃棄されずに生まれ変わっていくことが眼に見えてくることで、準備する側としては何よりの力になります。更に、ファイバーリサイクルの知名度を高めると同時にその活動の意味をも理解して頂けていると考えています。

秋のきものフェアも、多くの方々に満足して頂けるように頑張らねばと気を引き締めています。最後にきものに成変わって一句よみました。

行く末の送りしきもの 案じつつ 我が人生に 振り返る

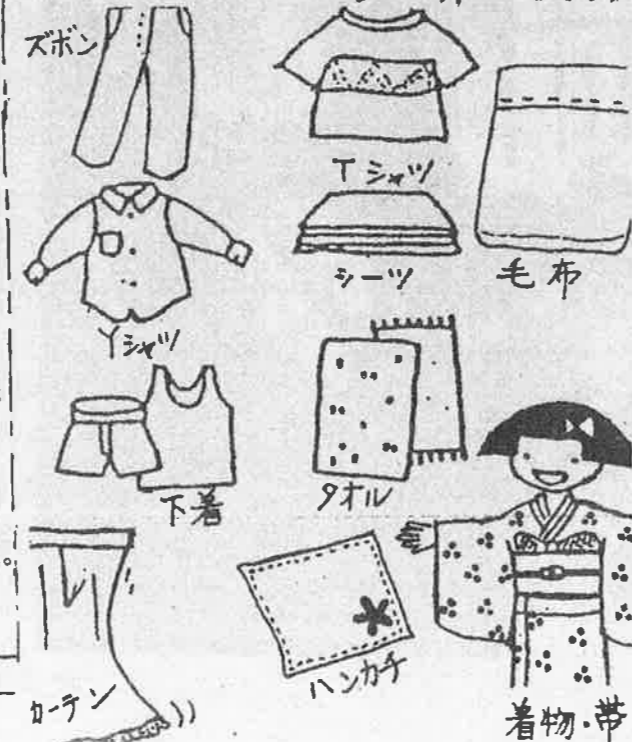
反毛も自動車産業や建設業の不振に加えて海外から安い原料が大量に輸入されるようになったことで、反毛製品の需要が激減するに至っています。

この滞りがマスコミにも取り上げられました。“繊維リサイクルの滞りで回収業者の倉庫はパンク寸前”などと。こんな報道が一部の方には“回収しない方がいいのでは”と言った不安を抱かせたようです。

しかし、回収しなければ、殆どの古着、古布は、ゴミと共に出され、結局焼却処分にされる運命になります。せつかく再利用可能なものが、あたら“灰”になってしまいます。狭くなった出口をこじ開けてでもリサイクルあるいはリユースしてゆくことがゴミの減量化にもなってゆくのです。

この取組が、例えば反毛業者によって、反毛された糸からリサイクル毛布が生まれるなどの成果となっています。

“環境保全”“ゴミの減量化”のために、多様に変化する状況のなかで、新しい情報を素早くキャッチし、発信し状況に応じて柔軟に対応していくことが、私たちFRNに課せられた活動です。リサイクル できます



カタログハウスにFRN登場!

雑誌「通販生活」今夏号 & 環境セミナー・行き詰まる衣料のリサイクル 3/9

運営委員 堀川君子

カタログハウスの「通販生活」に、環境ジャーナリスト・枝廣淳子の回収ルートを通る旅と言う、連載読み物があります。その「衣料編」の取材をFRN事務所と回収拠点(栄区ナチュラルコープ・ヨコハマ)で受けたのは、未だ寒い1月でした。「えだひろ」さんもカタログハウス編集部のお二人も「仕事バリバリの怖そーなタイプ」とは正反対の、優しくて親しみやすい方々で、益々ファンになってしまいました。取材は私達の所だけでなく、ナカノ本社、工場×2、愛知の反毛&紡績工場、アパレル協会他されていく「古繊維リサイクル」の全てが、正しく、180円のエコ通販誌で読めます。～今まで、結構いい加減なマスコミの取材もあったので、嬉しいな～普段、活動に関わっていても、ナカノ、それを上手に一般の人に伝える難しさは、皆さんも感じているでしょう。

そこの所をととも「すんなり、わかりやすく」伝えてくれたのは、この記事だけでなく、3月、カタログハウス社の環境セミナー(対談・枝廣さん×中野さん、題は上記)でも、同じでした。1年間に捨てられる衣類は、一人あたり、トレーナー約20枚分=9キロ、国内では100万トンだそうです。～こんな感じで始まり、この数字は大型家具や家電ごみよりも多い～etc. 我々が中野パパとのかけ合いはお見事でした。150名の聴衆を前に、いきなり紹介され、飛び入りでFRNの再生活用の話を堂々とされた、志沢さんもさすが!ゴッドマザーでした。

セミナー当日も販売したリテックス製品は、誌面でも取り上げられています。日本中に大ブレイクなるかな?!

- 回収繊維でつくった
- 白軍手(綿・化繊混紡、1組50円)
- 茶色のカラー軍手(ナイロン、1組80円)
- 拭き布(綿・化繊混紡、1枚80円)
- ジーンズの裁ち落としでつくったショッピングバッグ(550円)

古着から生まれた軍手、拭き布を販売しています



事務局 竹内幸代さん

245頁に「衣類の回収・再生」のお知らせがあります。

枝廣さんは、坂本龍一さん(音楽家)の生着も!

えだひろ・じゅんこ 環境ジャーナリスト、翻訳者、会議通訳者。 著書に「エコ・ネットワーキング」(海鳥社、「朝2時起きで、なんでもできる」(サンマーク出版)がある。 http://www.ne.jp/asahi/home/enviro/

これが、回収した黄色のウールでつくった「リサイクル毛布」 「災害用の備蓄毛布などに使ってもらいたい」とナカノの社長、中野聡泰さん。

通販生活より

事務所に看板がついたヨ~!

6月3日(月)その日はやって来た!

事務所を構えて丸2年。事務所でのイベントを開催するたびに迷子になった方を迎えるに出ると言ったことが何度あったことだろう。

看板は3カ所 一番大きな看板は東側シャッター上の壁に もう1つは大和ビル中庭入り口東側の壁 あと1つは中庭側の事務所出入り口シャッター奥の壁に。

これからは迷うことなく来所していただだけそうです。是非見に来て下さい!

W2700*H600mm



FRN

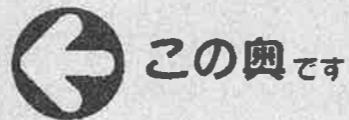
古布・古着は大切な資源です!

ファイバーリサイクルネットワーク

お問い合わせは TEL 045-710-6507

W910*H600mm

ファイバーリサイクル
ネットワーク 事務所



クリーム色に緑の文字
スッキリしたデザイン
の看板ですよ!

ファイバーリサイクル
ネットワーク
事務所

W300*H1200mm



*古着伝言版の発行が大変遅れました。片手間にやっ
てはいけないと反省してい
ます。

*地区の情報をお寄せ下さ
い。

H.T

